世界に誇る和歌山の豊かな自然

【ラムサールの海と日本ジオパーク】

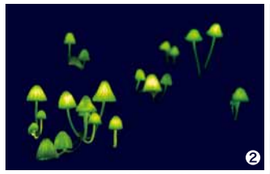
串本の海は、北緯33度30分という高緯度に位置しながら、多くのサンゴが生息している。特に世界最北の大サンゴ群生域があり、クシハダミドリイシやオオナガレハナサンゴ群集は国内最大規模といわれている。沖合を流れる黒潮によって暖かい海水が大量に運ばれてくるため、非常に多くの熱帯性の生き物が生息する豊かな海である。http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/032000/032500/ramsar/kushimoto.html

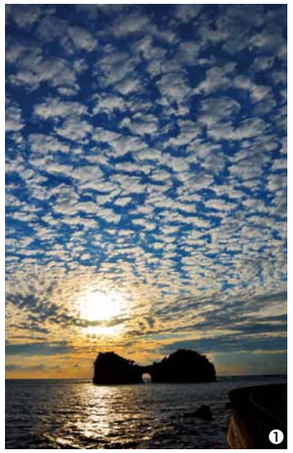
和歌山の魅力は、自然の逞しさを抜きにしては語れない。入り組んだ海岸線に緑深い山々が迫り、本州最南端の潮岬に、世界最大級の暖流・黒潮が打ち寄せる。特に熊野周辺は日本でもトップクラスの年間降水量を誇り、雨は森を育て、森は豊かな海を育てる。木の国と呼ばれる和歌山は、美しい水が循環する〝水の国〟でもある。

なかでも特に美しい海として知られているのが、串本周辺である。串本沿岸海域は、日本で最初に指定された10箇所の海域公園のひとつであり、2005年には国際条約であるラムサール条約湿地に登録された。ラムサール条約とは、特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地の保護が目的ではあるが、現在では地球上の全ての生命体のために重要な地域でありその保護のために機能している。

そしてもうひとつの注目がジオパークである。地層・地形などを含む雄大な自然、さらに滝・巨石・大木などをご神体とする自然信仰、そしてそれらに影響され生まれた豊かな歴史文化。それら熊野の素晴らしさと人々の活動が認められ、2014年に日本ジオパークとして認定された。現在はユネスコ世界ジオパーク認定に向けて取組を行っている。

日本最大の半島、紀伊半島に位置する和歌山の雄大な自然は、日本はもとより、世界からも注目を集める〝守るべき〟地球の宝物!!である。





❶南紀白浜のシンボル、円月島。島中央の洞窟が特徴　❷森の妖精と呼ばれるシイノトモシビタケ。和歌山県南部で見られる光るキノコ　❸熊野信仰も南紀熊野ジオパークを構成する要素のひとつ　http://nankikumanogeo.jp/

嶋津観光協会
住所／新宮市熊野川町嶋津57
電話／050-7001-5299
http://shimadu.iinaa.net

自称・日本一小さな観光協会「嶋津観光協会」は、周囲を他県に囲まれた飛び地にある。運営しているのは平野皓大（ひらのこうだい）さん。南紀熊野ジオパークガイドのひとりで、2008年嶋津にUターンし、昔から伝わる地元の話を交えてガイドを行う。「路傍の石も5000万年前の物かもしれません。そういう時間の隔たりを身近に感じることができれば、和歌山の楽しさは倍増します」と語る。❹嶋津の筏師の道　❺秘境に建つ平野さん宅

梅からUMEに 世界農業遺産

【みなべ・田辺の梅システム】

早春のみなべ・田辺の山々に咲き誇る梅の花。薪炭林や梅林を飛び回るニホンミツバチ。400年以上前から継承されてきたこの里山の風景は、梅を中心とした農業と景観、さらには生物多様性を育み、「みなべ・田辺の梅システム」として2015年に世界農業遺産に認定された。今後は梅の優れた機能性の認知と販路開拓、そして美しい里地里山の魅力を世界に向けて発信し、さらなる地域の活性化につなげていく。日本だけではない、世界の注目を集める「UME」の誕生である。

みなべ・田辺地域世界農業遺産推進協議会
電話／0739-74-3276

+one NEWS

【災害備蓄用梅干し】
高まる防災意識を受け、首都圏では保存の効く梅干しが注目を集めている。美味しいことはもちろんのこと、災害時の熱中症対策にも適し、「防災品」として備蓄する自治体も増えつつある。

世界津波の日 国連が決議採択

【生ける神・濱口梧陵】

11月5日は国連の決議により「世界津波の日」に採択された。濱口梧陵が、1854年の安政南海地震の際、津波から多くの人命を救い、また私財を投じて村の復旧・復興につなげたことにちなんだもの。その功績は「稲むらの火」として教科書に掲載され、小泉八雲をして「生ける神（リビングゴッド）」と賞されるほど。また梧陵は社会福祉事業や政治活動にも心血を注ぎ、和歌山県の初代県議会議長、その後は初代駅逓頭（以前の郵政大臣）となり、和歌山だけでなく日本のために活躍した政治家でもある。

稲むらの火の館
場所／有田郡広川町広671　電話／0737-64-1760
http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/

濱口梧陵は、現在でも有名なヤマサ醤油の7代目である。この像は初代議長として和歌山県庁内に建っている。

+one NEWS

旧和歌山県議会議事堂は19世紀の木造和風意匠の建造物で、格子天井や玄関周りの彫刻など細部の装飾に至るまで風格が感じられる。2016年6月県議会の開会が行われた。
場所／岩出市根来2347-22
電話／0736-61-1160

海難1890公開より来場者が増加

【トルコ記念館】

2015年6月4日にリニューアルされた館内。当時、生存者の治療に当たった串本の医師が書いた診断書や「船甲羅」と呼ばれる遭難現場を間近に見ることができる。

日本とトルコの友好関係のはじまりといわれている「エルトゥールル号」遭難事件。その現場近くに建つのがトルコ記念館だ。見どころはエルトゥールル号の模型や海底から引き揚げられた乗員の遺品などで、事故当時の様子が臨場感たっぷりに感じられる。また映画「海難1890」公開以降、エルトゥールル号への関心が高まり、来場者は格段に増加しているという。

125年以上前にはじまった両国の友好の物語は、テヘラン救出作戦を経て、現在もそして未来まで受け継がれるだろう。

住所／東牟婁郡串本町樫野1025−26
電話／0735-65-0628